

与野南小だより

10月号 令和5年10月2日発行 第6号


 さいたま市立与野南小学校 【児童数】計334名
 電話 831-0157


学校ホームページ

教室では学ぶことのできない貴重な体験

校長 土屋 智樹

10月を迎え、ようやく暑さも和らぎ、涼やかな秋の風が吹く季節となりました。

先月は、3、4年生の校外学習や修学旅行、文化芸術巡回事業といった様々な体験学習が行われました。その中で、特に私が心に残った修学旅行について感じたことを紹介します。

9月25、26日、6年生が日光方面へ修学旅行に行ってきました。2日間とも天候に恵まれ、予定通りの活動を行うことができました。1日目は、華嚴の滝や戦場ヶ原のハイキングなど、主に奥日光の自然を見学しました。見学地の奥日光は、日光連山に囲まれ、湖沼や滝、森林、山、湿原が広がっている自然がとても豊かな場所です。そして、そこには様々な動植物が生息・生育しています。しかし、この自然豊かな奥日光では、鹿の増加や外来植物などにより、生態系への影響が懸念されているそうです。宿泊したホテルの近くでもたくさんの鹿を見かけましたが、こうした背景を知ると、とても考えさせられます。鹿が増えたのは、地球温暖化による積雪の減少や天敵であるオオカミの絶滅、狩猟者の減少などが関係していると言われています。そこで、奥日光では、自然を守るために、戦場ヶ原を中心に、鹿の侵入防止柵や食害防止ネットなどを設置しているそうです。子どもたちは、戦場ヶ原のハイキング中に、樹木に巻かれていた食害防止ネットに気付くなど、自然の雄大さだけでなく、奥日光の自然を守る取組を知りました。子どもたちに、環境問題について身近に考える契機としてもらいたいと思いました。

2日目は、主に日光東照宮を見学しました。日光東照宮は、世界遺産の一つで、徳川家康を祀る神社として建てられました。ほとんどの建築物は、国宝や重要文化財に指定されています。前日の夜、ホテルで日光彫の体験をしましたが、その際に、日光東照宮の職人が彫ったものが日光彫の起源となったことを学習したので、子どもたちは、豪華絢爛な美しい陽明門の彫刻がどのように彫られたのか、思いをはせながらじっくりと見ていました。また、これらの歴史的な建造物が江戸時代から今に至るまでその姿をとどめるのも、修理を繰り返す人々が大切にしてきたからです。子どもたちには、文化遺産を保護し、後世までに残すことの大切さを感じてほしいと思いました。

また、子どもたちの行動や態度についても立派だと感じるものがたくさんありました。時間を意識し、みんなが早めに行動し、集合時刻をきちんと守ることができました。班活動やホテルでの生活では、お互いに声を掛け合いながら、協力して活動できました。話を聞く態度もよく、スケジュールの変更などがあっても、先生の指示を最後まで静かに聞いて行動できました。子どもたちは、事前に見学地について調べたり、旅行の日程、めあてや約束を確認したりして準備を進めてきましたが、このように、めあてをもって参加することがとても大切であると改めて感じました。子どもたちは主体的に活動に取り組み、充実した修学旅行となりました。

さて、10月も校外学習や体験学習が多く続きます。教室では学ぶことができない直接的な体験を通して、深い学びの他、仲間とのコミュニケーション、自立心、主体性、協調性、異なる他者との協働する能力等を育んでいきたいと思ひます。



2017年に平成の大修理を終えた陽明門です。